

平成30年
(2018年)
11.1
No.842

広報ほっとなべ

http://www.kyotanabe.jp/

発行/京田辺市
〒610-0393 京都府京田辺市田辺80
☎0774-63-1122 / FAX 0774-63-4781
FAX でも問い合わせを受け付けます
■ 主な内容
2-3 まだまだ伸びる京田辺
4-5 【健康・福祉】【お知らせ】
6-7 【催し・募集】冬休み留守家庭児童会



けがれをはらい清める
①お祓(はらい)の舞



大住隼人舞

勇壮な6つの踊り



月読の神や天津神などを呼び招く
②神招(かみおぎ)の舞



地元の中学・高校生による籠笛の音色が古代へといざなう



弓の巧みさと狩猟の豊かさを祈る
⑤弓の舞



隼人の勇ましさなどを誇示する
③振剣(ふりつるぎ)の舞

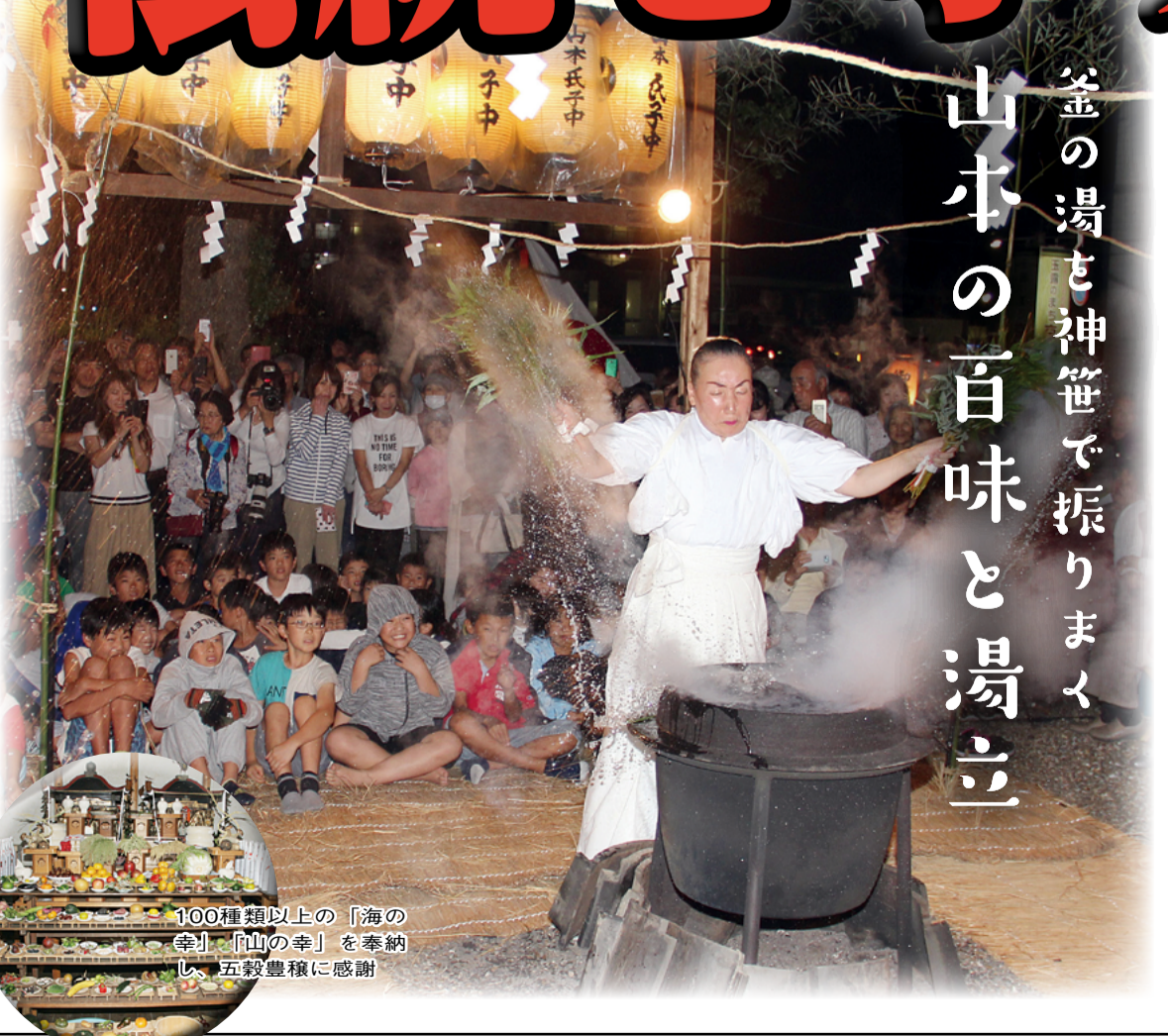


火を恐れ敬い、神々に感謝を示す
⑥松明(たいまつ)の舞



舞の前には、小学生の女子が「隼人踊り」を華やかに披露

伝統を守り継ぐ



釜の湯も神笹で振りまく 山本の百味と湯立



円座も回り舞う 朔日講の神楽

秋深まる10月、文化薫るまち京田辺では、3つの伝統行事(市無形民俗文化財)が行われました。
7日、佐牙神社山本御旅所(三山木)では、「山本の百味(ひやくみ)と湯立(ゆだて)」が行われました。無病息災に恵まれるといわれる湯を巫女が勢よく振りまくと、参拝者からは大きな悲鳴と歓声が湧き上がりました。
14日には、白山神社(宮津)で、「朔日講(ついでたちこう)の神楽」が行われました。江戸時代後期から続いているとされ、地区の年長者である宮守が、鈴と扇子を持ち、おはやしに合わせて円座の上を回り舞う一風変わった神楽です。
また、同日の晩、天津神社と月読神社(大住)で、南九州の大隅地方から伝わったとされる「大住隼人舞」が奉納されました。幻想的な雰囲気の中、地元の中学生が6種類の勇壮な舞を力強く披露すると、観客からは、大きな拍手が送られました。



100種類以上の「海の幸」「山の幸」を奉納し、五穀豊穡に感謝